

Kanisan club

かも版

[月刊] かにさんくらぶ® | 2022.6 | vol.324

総発行部数 75,040部 [かも版] 31,264部発行 28,731部配布／2,533部設置 [かに版] 43,776部
配布エリア／美濃加茂市、八百津町、坂祝町、川辺町、七宗町、白川町、富加町、東白川村

巻頭特集 我田の森を拠点とする有志が活躍する「里山クラブ可児」

目指すはエコロジカルな まちづくり!

うちの自慢をキーワードで紹介!

ひとつのお店でクーポン2枚!! おトクグルメ

地球を守ろう! 環境&エコ特集

地元の求人情報が満載! まちJOB まちジョブ



——レンチンだけの時短料理をスマホで簡単おとりよせ!——

フリマ専用

6月
特集

レンチン爆速

おかず&おつまみ特集

割引クーポンを
いつでもスマホで!!地元クーポン
スマートアプリ



我田の森を拠点とする有志が活躍する
「里山クラブ 可児」

日指すは、 まちづくり！

2000年の発足から森林整備にまい進し、3年間にわたる棚田復活や展望テラスづくりまで、幅広く活躍する里山クラブ可児。主力メンバーが70代とは思えないパワフルさと快活な笑顔で、どんな難題にもトライしてきました。

その原動力は、「子どもたちに自然の素晴らしさを伝えたい」という一途な情熱。我田の森で活動にいそしむメンバーたちに、同会の歩みと、想いを聞きました。



里山クラブ可児 代表

8月には
森の学校を
開催予定
です！



「可児市はもちろん、名城大学やNTT、コープなど外部団体とも関わりながら、発展してきました。開拓にあたった先輩会員たちのおかげです」と笑顔を見せます

何でも手づくり＆自給が基本
知恵と技を持つ会員が集結
100kg以上のもち米が収穫でき
る7枚の棚田、イベント参加者たち
が集まる芝生広場、幼い子どもたち
にぴったりサイズのミニチュア小屋、
そしてボランティアが休息をとる立
派なベンチや山小屋。我田の森にあ

る設備は、里山クラブ可児が手づくりしてきたものの、ほんの一部。つぶつたものを見ていくと、枚挙にいとまがありません。

「薪棚やピザ窯も、新設あるいは改修したもので、木造建築はほとんどの風倒木か間伐材を製材するなどしたものです。しかもこの土地は、以前たちは、山を切り開いて林道をつくりながら、里山の再生に取り組んで

可児市内の子どもたちを集めての田植えは、5月の恒例行事です。この日のために種もみから育てる理由は、田植え機用の苗では丈が短くて、子どもたちが持ちにくいから。会員の優しさが詰まっています



きました。ただ、その労力は想像してあまりある規模でした。

「棚田復活ひとつをとつても、森林整備や草刈り、湧き水の引き込みや土留め工事と、作業は多岐にわたります。毎週水曜日は『水曜プロジェクト』として棚田づくりを、第3人數で、それぞれ3年と20年がかりでこなしてきたんですよ」

もうひとつ特筆すべきは、仕事の丁寧さ。ボランティアとはいえ、決して手を抜かないのが、里山クラブ可児の流儀です。



1 メンバーの中には、チェンソーが使える人も。台風で倒れた風倒木などを処理しつつ、製材機を利用してデッキ材にする場合もあります 2 自然の恵みを生かすため、間伐したコナラなどの木を利用したシタケづくりを行っています。コナラやクヌギなどが、シタケの栽培に適している木なのだと。春、シタケ菌が入った「コマ」を打ち込むと、秋の収穫が期待できます 3 我田の森頂上部に位置する山小屋「夢工房」。見晴らしのいい夢工房で、メンバーは一息入れたり、おしゃべりを楽しんだり、チェンソーアート作品をつくったり。温かな交流が生まれる拠点となっています



ニホンカモシカ

日本の特別天然記念物、ニホンカモシカもたびたび我田の森に登場。「本来、森は彼らのものなんですよ」と提さんは語ります

ササユリ

見頃は6月。清楚なピンクの花は香りがかぐわしい。生息地が限られる希少植物はほかにもあるので、そっと見守りたいもの

里山整備＆教育普及に取り組んで20年。

年水を抜かずに管理する理由は、生き物の住処をつくるため。棚田上流

にビオトープを配したのは、棚田について

では今年、日本自然保護協会主催イベントである「自然学校」や「森の学校」、森を舞台にした活動を展開するNPO・企業との協業です。

こうした取り組みで、子どもたちやファミリー層を笑顔にしてきました。努力のかいあって、2013年に

は県下2番目となる「環境保全モデル」が完成しました。

「外出規制もあり、もやもやして会員たちの優しい想いは徐々に高ま

り、昨年から復活に踏み切りました。

会員たちの優しい想いは徐々に高まっています」

こうしたイベントもまた、同会だ

けにやはり本格的。棚田に植える苗など、バリエーション豊かに活動し

ています」

焼き窯を改修した「太郎窯」。子どもたちは生地づくりからトッピングまで、自ら行います。そんな本格派

メニューをつくり上げてきた会員は、もともと森林関係の仕事をしていた

わけではないといいますから、驚き

です。

「私たちのほとんどは、もともと一般の会社員ですよ。マツタケ山再

生の触れ込みで参加してきた人も多く、20代から80代まで50人ほどの会

員を擁しています。近年では、若い人たちの加入もあり、ますます活気

づいてきました」

昨年11月、名城大学の里山研修で訪れて入会した稻垣さやかさんは、最年少。楽しみながら、森林との付

き合いの方を学んでいました。

「どちらかといえばインドア派で、こんなに景色が良いところがあると

里山クラブ可児の一員になりませんか?!



里山クラブ可児では、森林や棚田管理をこなしつつも、各々が興味・関心のあることを実行中!誰かを喜ばせたい、楽しいことを探している、みんなでワイワイと集まりたい…。動機は何でもOKです。ぜひ一度、参加してみてください。

里山クラブ可児会員
稻垣さやかさん

定期活動日
水曜日、第3・4日曜日 9:00~14:00

詳しくは
こちらを
チェック!



細やかな手仕事を欠かさず、協力しながら維持管理に精を出す、里山クラブ可児のメンバーたち。今後、メンバーの若返りを図りながら、笑顔あふれる活動を企画・実施していくでしょう。



放っておくと大量発生し、あぜに穴を開けてしまうザリガニ。駆除を兼ねて、子どもたちの遊び相手になってもらいます。恒例行事でもっとも人気があるイベントのひとつ、餅つき。棚田で採れた無農薬・有機栽培の米をみんなでつきます。多いときには、120kgもの収穫ができるそう